

第2回南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会議事録

日時 令和4年11月28日 午後2時から午後3時20分

場所 南魚沼市民会館 多目的ホール

参加 委員 18名
事務局 5名

議事

(1) 配布資料の説明

資料1 複式学級の基準及び特徴について

資料2 適正規模の想定による統合シミュレーション

資料3 統合を行った小中学校へのアンケート結果

(2) 小・中学校の適正規模について

(3) その他

1. 開会（学校教育課長）14：00～
2. 挨拶（教育長）（塩川委員長）
3. 傍聴希望者について（許可）
4. 議事

(1) 配布資料の説明（事務局より資料に沿って説明）

資料1 複式学級の基準及び特徴について

資料2 適正規模の想定による統合シミュレーション

資料3 統合を行った小中学校へのアンケート結果

(2) 小・中学校の適正規模について

委員 子どもたちが通いやすいように学区についても再編成を行うべき。

校舎が全体的に古くなってきているので、学校の立て直しを含めた再編成を行うべき。

副委員長 教科書がA版に変わったこともあって机の天板のサイズが大きくなっている。校舎は昔の基準で作ってあるので、今の机で35人学級を実際に作ってみると身動きがとれない状況になる。新校舎ということであれば緩和されると思うが、現在の校舎の利用ということになると人数的に厳しいものがあるのでご了解いただきたい。

委員 人口減少という点で、昨年度の新生児数が80万人を割り、今年の1月から9月の出生数が前年を4.9%下回っている。教育委員会はどのような風に捉えているか。

教育部長 学区再編検討委員会では小学校は令和10年、中学校は令和16年の推計数でシミュレーションしている。これから生まれてくる子どもの数をよく考えて、その子どもたち一人一人が取り残されないような教育ができるようにするにはどうしたらよいかを念頭において進めていきたい。

委員 人口減少が顕著である。シミュレーションに使用している数字は出生数を基にしていて、人口問題研究所が出す人口推計などには当てはめていないのではないかと思う。教育的な見地から学校の適正規模を出すのは非常にいいことだが、将来の人口をどうしたら維持できるかということも考える必要があると思う。合併したばかりの学校の保護者が次の合併も考えるような状態で理に詰まった意見だと思う。そのようなことも頭におきながら議論をしていただけるとありがたい。

委員 地元の石打小学校が統合したばかりである。前回の学区再編等検討委員会の答申に則って複式学級ができるということで統合したが、昨年度の出生数が4名という衝撃的な数字が出た。皆さんが言うように、ここで15人・20人という学級編成で考えるのではなく、子どもたちの教育にとって何が大切かを考えなければいけない。前回の検討委員会で校長先生からお話が合ったように、最低限クラス替えのできる学校にしてあげることが私は本当に大事なことだと思っている。

委員 支援学級を含めて学校を維持していただけるとありがたい。南魚沼にも小出にも支援学校がありますが、そうではなく、支援学級にも普通学級にも通えるような学校と規模をご検討いただきたい。

教育長 支援学級については、支援学級で教育を受けた方が良いという実態があればそれぞれの学校で設置される。統合によって支援学級がなくなるというのは一概には言えないが、これからも支援学級は必要であると考えている。支援学級の大切さについてはよく受け止めて進めていきたい。

委員 学校の適正規模というのはなかなか決めにくいところがあると思う。子どもにもよるが、大人数の学級で学んだ方が良い子と少人数の学級で学んだ方が良い子それぞれいるので適正規模を決めるのは難しい。学校現場からの意見を聞きながら進めていくのが必要ではないか。また、地域の意見も大事だと思う。後山が特認校として維持できているのは地域の協力があってこそ。小学校がなくなったら子育て世代が後山に住むという選択をしなくなり地域の衰退が起こってしまうため、統合が進むと若い世代は住みにくくなってしまう。いきなり統合を進めるのではなく、将来的なことを考えながら少しずつ統合を進めるのがいいと思う。

委員 八海中学校の統合に座長として携わった。当時、平成 20 年の答申を受けて検討を進める中で、すでにあの時の数字で統合しても八海中学校が一番最初に生徒数が減ると分かった。しかし、教育長は答申で決まったことだから統合するかしないかを決めてくれということで、六日町中学校との統合は却下された。今回の答申は地域の気持ちも大事だが、湯沢町のような地域を飛び越えた 1 町 1 校のような統合も検討していく必要があると思う。

委員 塩沢に関して、合併したばかりの上田小学校・石打小学校の保護者の意見を見る中で、コロナで保護者同士懇親会ができずコミュニケーションが取れておらず、子どもたちも同じ感じになってくると思う。すぐに合併となると保護者も子どもたちも負担が大きく、ここで案を出したところでなかなか難しいのではないかと。人数が増えると大人数が合わない子が出てくるので、そういう子の対応も考えなければいけないと思う。

委員 タブレットの持ち帰りを進めていると思うが、栃窪小学校や後山小学校などと規模の大きい小学校をオンライン授業で繋いで授業をすとか、もっとタブレットを活用した方がよいのではないかと。小学校のうちから交流することで、中学校に行ってから友達がいる状況になっていいのではないかと提案する。

委員 栃窪小学校は規模が小さく、実際にタブレットを使用して授業をしている。子どもがコロナに感染して半月学校にいけなかった時もタブレットを使用して授業を受けた。規模が小さいので、他校との交流も進んでいて塩沢小学校や後山小学校と交流している。タブレットをどこまで活用するのか難しいところであるので、市としてどういう風に進めていくのか聞いてみたい。

教育長 実際のタブレットの活用については校長先生方から状況をお話してもらえればと思う。タブレットの活用段階として、現在電子黒板を整備中である。電子黒板を整備した学校はかなり活用が進んでいる。授業の中でタブレットにそれぞれ入力した考えを電子黒板で共有したり、意見を見あったりしている。家庭への持ち帰りについては学校ごとにより違いがあるが、進んでいる学校はタブレットに入っているドリルで学習したり、家庭学習したものをタブレットで提出したりしている。今後、電子黒板をすべての学校・学級に整備をして活用を進めていきたいところである。それぞれの学校の様子を紹介してもらいたいと思います。

副委員長 タブレットの活用について紹介します。高学年になればなるほどタブレットを活用した学習の時間が増えていく。高学年になるとタブレットを使ってプレゼン資料を作成して授業の中で発表して考えを共有している。他校との交流でいうと秋に石打小学校と国際科の授業でタブレットを通じて交流をした。また、職員が濃厚接触者になり勤務できない時に自宅から zoom で授業を行ったこともあった。すべての職員ができる

というわけではなく、これから少しずつ進めていく段階である。

委員 上田小学校ではコロナの濃厚接触者で自宅待機になった子どもがリモートで授業に参加した。高学年に限ってですが、休んでいる子どもがみんなと同じように授業に参加して、先生がタブレットを使って全体に説明することができるようになってきた。タブレットは遠隔地であっても繋げるし、個々の子どもたちを繋ぐという意味ではとても活用できる未来があると思っている。しかし、クラスという母体があつてのことなので恒常的にタブレットで子どもたちを繋ぐというのは本来は違うのではないかと思っている。また、学級に20人以上いれば意思疎通を図るのにタブレットの活用は有効だと思うが、十数名であればタブレットより直に話し合うことを大事にした方がよいと思っている。タブレットの活用はどんどん進めるが、子どもたちに身に着けさせた力はある程度の人数が必要であると思う。当校ではタブレットの活用は進んでいますし、下の学年の子どもたちも使えば使うほどできるようになっているので、これからはもっともっと可能性が広がると思う。

委員 小学校・中学校の合併にあたって、人数が集まらなくてサッカーや野球のチームを組めないという話を聞く。また、女子生徒が地域にいないから学校を転校したという話も聞いている。特認校は別として、集団でスポーツができる学校作りが必要だと思っている。

委員 上田小の時に教頭として統合に携わったが、統合業務は本当に大変です。通常業務に加えて統合業務をしなければいけなく、教育課程、校歌、校章、育成会、後援会、一つ一つ会議があつて夜の会も増える。教職員だけでなく、保護者も地域性の違いからうまくいかないこともあったり、子どもたちも馴染むのに1年以上時間がかかったと思う。統合を経験した身からすると、すぐに統合ということは絶対に避けたいと思っている。先ほどクラス替えのできる生徒数が必要という話があつたが、南魚はクラス替えのない学校がほとんどで、うまくいっている時はいいが、問題が起こった時にリセットする場がないとすごく思う。クラス替えがあつたらなと思うことが何回もあつたので、そこは私も同じように考えている。

委員 H20年の答申では中学校は教科担任制であるため9学級あることが望ましいとなっていたが、最終的に7学級になっていた。八海中学校は統合まもなく5年目だが、10周年を迎えてすぐに統合を考えなければいけなくなると、地域も職員も混乱してしまうと思う。また、コミュニティスクールといった地域に根差した活動を小・中学校で進めており、部活動の地域移行でも新しい組織作りがようやくスタートしていくところである。前回の答申では距離数も示されていて、中学校は6kmとなっている。もし八海中学校が六日町中学校と統合となると大幅に超えて登校しなければならなくなってしまう。それも含めてご検討いただけるとありがたい。

委員 八海中学校の立ち上げにあたっては、前回の答申を経て素晴らしい校舎を整備していただいた。城内の地域作りの仕事に携わって4年目だが、若い世代の顔が見えないことが気になっている。統合した学校がまた近い将来統合しなければいけないビジョンがあると、地域の安心感としても厳しいものがある。通学距離について4kmや6kmの規定があると思うが、湯沢町では一番遠いところでは30kmの距離をバスで通っている。老朽化した校舎ではなく、拠点となる素晴らしい学校があることで親御さんも子どもたちを送り出すことに抵抗がなくなるのではないかと思っている。最終的には長い目で見て各地区に拠点となる学校を整備していくことも検討の方向になるのではないか感じた。南魚沼では子どもの数が減少しているが、都会では子どもの数が増えているところもあり、ニュースを見ているとそういう地域は子育て支援が充実している。南魚沼市としての10年後だけでなく、さらにその10年後といった長い目で見た時の教育・子育てのビジョンを定めたうえで議論を進めていくことが必要だと感じた。人数の増減による対処については、長所短所を生かしてそれぞれ工夫できると思う。せっかく整備した八海中学校がまた統合となって校舎が使われなくなってしまうのはもったいないと思う。減ったとしてもそこでできる教育の安定的な方向付けをすることで存続していくこともあり得ると思うので、そういうことも総合的に考えた南魚沼市のビジョンを出していくことも一つの手だと思う。

委員 小・中学校の建て替えについて検討しているのか知りたい。六日町中学校が木造だったり、大和中学校のトイレが和式だったりして合併だけでいいのかと思っている。合併しても汚い校舎であれば子どもたちは喜ばないし、きれいな校舎であれば喜んで学校に行くと思うので、合併だけでなく建て替えも含めて検討していただきたい。

5. 次回の開催予定：1月17日（火）

6. 閉会